

環境学習 2025 年 11 月度 E14 参考文献紹介1

Rachel Carson(レイチェル・カーソン)著 青樹築一 訳『沈黙の春』新潮社 令和3年4月83刷
会員 K.T.

環境学習の参考文献として、Rachel Carson(レイチェル・カーソン)の『沈黙の春』を紹介したい。『沈黙の春』は環境問題の古典といわれている。17章で構成されており、第1章のみは、衝撃的な寓話で始まる。寓話ではあるが、あとの章を読んだ後、もう一度、第1章を読むと、不気味な現実味をおびてくるように、私には感じられる。環境問題のバイブル、といえる文献と思っている。

■プロフィール Rachel Carson(レイチェル・カーソン・1907～1964年)

アメリカの海洋生物学者で作家。1907 年、アメリカ ペンシルベニア州スプリングデールに生まれる。文学少女で作家を夢見ていたが、ペンシルベニア女子大学時代「生物学」に魅せられ生物学者を志す。 ジョーンズ・ホプキンス大学大学院で動物学の修士号を取得。アメリカ連邦漁業局・魚類野生生物局の公務員として海洋生物学に深くかわる。1962 年出版の『沈黙の春』は、殺虫剤などの「合成化学物質」の無分別な大量散布(使用)は、生態系を乱し、生物環境の大規模な破壊をもたらす。それは人間の生命にも関わることになる」と警告し、社会に大きなインパクトを与えた。問題の重大さはケネディ大統領を動かし、大統領科学諮問委員会での答申は『沈黙の春』の正当性を認めるものだった。この本によって世界は環境問題に眼を開かされた。『沈黙の春』出版の2年後、1964 年春、レイチェル永眠。56歳



■『沈黙の春 (Silent Spring)』第1章「明日のための寓話」 <引用>

「アメリカの奥深くにわけ入ったところに、ある町があった。(中略)ところがあるときどういう呪いをうけたのか、暗い影があたりにしのびよった。いままでみたこともきいたこともないことが起こりだした。若鶏はわけのわからぬ病気にかかり、牛も羊も病気になって死んだ。どこへいっても、死の陰。農夫たちは、このだれが病気になったというはなしでもちきり。町の医者も、見たこともない病気があとからあとから出てくるのに、とまどうばかりだった。(中略)自然は沈黙した。うす気味悪い。鳥たちは、どこへ行ってしまったのか。みんな不思議に思い、不吉な予感におびえた。裏庭の餌箱は、からっぽだった。ああ鳥がいた、思っても、死にかけていた。ぶるぶるからだをふるわせ、飛ぶこともできなかった。春がきたが、沈黙の春だった。(中略)病める世界 — 新しい生命の誕生をつげる声ももはやきかれない。でも、魔法にかけられたのでも、敵におそわれたわけでもない。すべては、人間がみずからまねいた禍いだった。(中略)本当にこのとおりの町があるわけではない。だが、多かれ少なかれこれと似たことは、合衆国でも、他の国でも起こっている。(中略)、アメリカでは、春がきてても自然は黙りこくっている。そんな町や村がいっぱいある。いったいなぜなのか。(後略)」

自然が黙りこくる理由は、この後の第2章「負担は耐えねばならぬ」・第3章「死の霊薬」・第4章「地表の水、地底の海」・第5章「土壌の世界」・第6章「みどりの地表」・第7章「何のための大破壊？」・第8章「そして、鳥は鳴かず」・第9章「死の川」・第10章「空からの一斉爆撃」・第11章「ボルジア家の夢を超えて」・第12章「人間の代価」・第13章「狭き窓より」・第14章「四人に一人」・第15章「自然は逆襲する」・第16章「迫りくる雪崩」で、説明される。そして、17章の最終章「べつの道」で、レイチェルは次の言葉でまとめている。

「私たちはいまや分かれ道にいる。(中略)どちらの道を選ぶべきか、いまさら迷うまでもない。長い間旅してきた道は、すばらしい高速道路で、すごいスピードに酔うこともできるが、私達はだまされているのだ。その行き着く先は、禍であり破滅だ。もう一つの道は、あまり《人も行かない》が、この分かれ道を行くときこそ、私たちの住んでいるこの地球の安全を守れる、最後の、唯一の機会であるといえよう。(後略)」

■お薦め

『沈黙の春』は 1962 年に出版された本である。昆虫を殺す化学薬品が、自然を破壊する。レイチェルの時代の化学薬品はDDTに代表される。日本の戦後、DDTはシラミ退治で子供達に振りかけていた。DDTは強力な殺虫力はあるが、残留毒性が強い為、日本では1971年以降、使用が禁止された。レイチェルは『沈黙の春』で化学薬品の危険性を指摘し、「地球に優しい道を選びなさい、そうでなければ『破滅的な道』を選ぶことになる。」と警告している。人類が、まちがわなない道を選んで、未来へ踏みだしてほしい、レイチェルの願いのように思う。ぜひ、機会を設けて、読んでもらいたい。